

# O.S.P



VOL. 9  
DECEMBER

[OSPREY]

# S

[SPIRITUAL]

# P

**無料**  
ご自由にお取りください

[PERFORMER]

**Keep it on the down low!!**

並木敏成が語る  
あのルアーの真実  
オーバーライド

**The Kotaro's Maxims**

ワーミングの極意を伝授!!

**O.S.P's GO-GETTER!!**

O.S.Pが誇る凄腕プロスタッフが  
ルアーの使いこなし術を明かす!!

遠藤正明 /  
アシュラO.S.Pルドラ130

**O.S.P  
動画  
随時更新!!**

# Journal

O.S.Pが誇る三人のスペシャリストが“旬”を説く!  
**三人の賢者はこう釣る!!**  
春日喜行 / 金井俊介 / 見上祥太



**オリキン  
優勝!!**

**H-1 GRANDPRIX  
マスタースカップ**

# THE KOTARO'S MAXIMS



## ワーミングの極意を伝授!!

昨年リリースされたドライブシャッド4.5インチは瞬間に他を圧倒する釣果を叩き出し、その地位を確立。今回は追加でラインナップされた6インチについて川村光太郎が実釣を交えながら解説する。

今回の紙面はO.S.P動画と連動!

[https://youtu.be/VLOcgs\\_Guzs](https://youtu.be/VLOcgs_Guzs) こちらも合わせてチェック!!



## ビッグバス攻略の切り札! ドライブシャッド6インチ

ノーシンカーで使用しても、デッドスローではしぶとクテルを振り、フォール中もまたしっかりテールを振ってバスにアピール。水面でのバジングでは引き波を立てると同時に甘い音を奏でるなど、特徴を挙げればきりが無い。そんなドライブシャッドは現在3.5in、4.5in、

そして6inの3サイズがあるが、中でも6inはそのサイズ感ゆえ、敬遠しがちなアングラーも多いのではないだろうか。しかし確実に、このサイズが利く場面があり、このサイズでないと食わせられない状況が多々ある。特にビッグバス攻略には、欠かせない存在だ。

### MAXIMS

濁りなどで視界が利きにくい中でバスの側線にアピールする!

ドライブシャッド6inはシリーズ最大のサイズゆえ、それに伴ってアピール力も随一。濁りが入っているような状況下では目立つカラーにチェンジするのも一手だが、サイズによるアピールでバスの側線に訴えるのも有効。そんなときこそ、ドライブシャッド6inのポテンシャルを体感できるだろう。テールが大きい分、しっかりと水をかき回す。カスミ水系でも濁ったらこのサイズの出番はある、と光太郎は言う。「このサイズならより遠投が利くので、野池の対岸に届かせたり、川幅が広いところでもバスが見つげてくれる。デカイルアーで食うなら、そのほうが最大の釣果を出せますね」。



6inというサイズに敬遠しているアングラーも少なくないだろう。だが濁っているときなど、バスの視界が利きにくいときこそ出番。そのポテンシャルの高さを知れば、驚愕必至!!

### MAXIMS

ノーシンカーでも動くテールは流れの中でもしっかりテールを振る

シンカーなどでウエイトを背負えば、どんなシャッドテールワームでもテールを動かす。それがたとえ、フォールであっても。しかしドライブシャッドはノーシンカーでもテールをバタバタと左右に振り、フォールでも遺憾なくその動きを見せるのは、最大の特徴でもある。この長所を生かし、例えば川などの流れに逆らわせて引いてくることで、遡上したくてもなかなか前に進めないベイトフィッシュの姿を演出。流れを受けてしっかりテールを動かす様子は、まさに流れに逆らう小魚そのもの。またオフセットフックで使用するため根掛かりにも強く、カバーに打ち込んでの使用も可能。カバー内でもしっかりテールを振りながらフォールするため、ジグやテキサスに振り向かないバスもイチコロだ。



川の流れに逆らうようにトレースすることで、なかなか前に進めないベイトフィッシュの姿を演出。ドライブシャッドの最大の特徴であるテールが、流れを受けてしっかりと左右に振る



フックポイントをきちんと隠してセットすれば、うっそうと茂るカバーに打ち込む、といった攻めも可能。カバー内でテールをバタバタと動かして潜行する姿に、百戦錬磨のバスも一撃!!

### MAXIMS

バスに違和感を与えないためにラインはやや弛ませ気味で巻く

ただ巻きでの使用時、ロッドはやや高め的位置でキープして、ラインは弛ませ気味にリトリブ。ラインを張っているとバスが口にしたときに違和感を与えてしまうのか、しっかりと食いつまめないケースも。ラインを弛ませることで余裕ができ、確実に食い込んで反転するという。またこの弛みが手のブレを吸収し、ワームに不自然な動きが伝わらないようにしてくれる、とも。さらにロッドを高く構えることで、ドライブシャッドは水面にきれいな三角波を立てて進んでくるというのもその理由のひとつ。ただし風が強かったり、ボトムぎりぎりを通わせたいときはロッドティップを低くしてリトリブしよう。



バジングでは引き波と同時に音を立ててバスにアピール。バスが上ずっていないのであれば中層を引くことも。このように多彩な攻めができるのも、ドライブシャッドの特徴のひとつ



ラインを弛ませることで、手のブレを吸収。これにより不規則な動きが伝わりやすく、一定に引いてくることのできる。三角波の引き波も出しやすい

### MAXIMS

アイがすっぽり隠れる位置まで入れてとにかく“まっすぐ刺す”ことが大事

ドライブシャッドに限ったことではないものの、このワームでは特に注意したいのがフックのセット。ノーシンカーで泳がせて使うことが多いため、必ずまっすぐにセットすることが重要だ。ど真ん中にフックを刺し、アイがボディ先端にすっぽり隠れる位置で抜く。その後、必ずフックを一度ボディに当てがって刺す位置を確認し、真上方向にフックを抜く。背面のスリットにはリブが設けられており、オープンウォーターではリブをひとつ使ってハリ先だけ埋めてもいいが、スキッピングで連投するようなヘビーデューティなときは、リブを多く使ってよりしっかり保持できるようにセットしよう。



フックは必ずまっすぐにセット。またアイがボディに収まるように刺すことで後方重心になり、フォール時に理想的な斜め45度で潜行する



スリット内に設けられたリブを活用し、スナグレス具合を調整。スキッピングでカバーにガンガン入れ込んでいくようなときは、ハリ先をリブにしっかりと埋め込むといい



フッキングは慌てず、焦らず、しっかり食い込んだことを確認してから! 最初の「コック」でアワセるとすっぽり抜けてしまう

### MAXIMS

シャッドテールワームはテールが命! 必ずプリスターバックに入れて保管しよう

これは6inに限らず、ドライブシャッドはプリスターバックに入れて持ち歩くようにしましょう。もしテールにクセがついてしまったら、本来のアクションが出せなくなってしまう。ただ巻きはもちろん、フリーフォールでも動かなくなってしまうので注意したい。また6inは4.5inよりも硬い素材を使っていることも覚えておいてほしい。4.5inと同じ素材だと動きが大振りになり、光太郎いわく「おいしい動き」を通り過ぎてしまう。さらには遠投したときの身切れも防いでくれる。サイズによって最適な硬さの素材と塩の量を採用しているのは“DoLive”シリーズの共通事項だ。



ドライブシャッドのポテンシャルを最大限に引き出せば、ビッグバス連発も夢ではない。6inというサイズに臆することなかれ。ビッグバスを狙って釣りたいなら、6inで決まり!!

### MAXIMS

日向では少し沈めて、日陰では水面直下 多彩な使い方ができるルアーは釣れる!

今回の野池での実釣の際、サニーサイドではバスの泳層を意識してやや沈めて、シェード側では水面直下をトレースした光太郎。水面直下でのバジングでは引き波を出すと同時に、甘い音を奏でるため集魚力がより高まる。これは高速で巻いても回転しないよう、テールがしっかり水を噛むように設計したことによる賜物である。「まずは水面から入って、少しずつ泳層を下げていく。バスのチェイスが確認できたらフォールで食わせる。このようにひとつのルアーで多彩な攻めができるものはワームに限らず釣れますね。複合的な使い方ができるルアーはやっぱりいい!」。



バジングでは引き波と同時に音を立ててバスにアピール。バスが上ずっていないのであれば中層を引くことも。このように多彩な攻めができるのも、ドライブシャッドの特徴のひとつ

バスはもちろん、シーバスでもランカークラスの攻略に欠かせないアイテム、それがルドラだ。今回はアイランドクルーズのキャプテン 遠藤正明がルドラでのランカー攻略法を紹介!!



の  
使い方

ボートシーバスおよびソルトフィッシングのご用命はアイランドクルーズまで!

<http://www.boatseabass.jp/>

●● 基本的な使い方 ●●

オープンエリアでの使い方で有効なのは、見えるアクションと食わせるアクションをしっかりと分けることです。キャスト後、ラインスラッグをとってから、大きく3〜4回シャクって周辺の魚にアピール! その後、ノーマルトリリーブのストロップ&ゴードで引きつけて食わせませす。また、低水温期になると逆に静かに動かすことがメインになり、シンキングを使ってキャスト後そのままフォールさせて、ルアーが極力上昇しないように巻き抵抗を感じながらスロートリリーブします。この2つは真逆の使い方ですが、どちらもこれが一番という強さを発揮するタイミングがありますので、ぜひ試してみてください。



●● SとSPの使い分けについて ●●

SPルアーの方が動きが機敏で、ソルトではスローフローティングくらいの比重になります。ジャークや左右へのダートなど、派手な動きに反応がいいときにとっても有効です。Sはもともと私のリクエストで作ってもらいました(と、私はそう思っていますが)。現場経験からなんですが、SPのルドラにオモリを貼ったりフックに糸オモリを巻いたりしてレンジを下げたルドラにだけ反応することがたびたびありました。たぶんシーバスの潜んでいるレンジが深いときは、SPより深いレンジを泳ぐSの方が捕食しやすいということだと思います。使い分けは、両方投げて反応のいい方を使うといいでしょう。

ルドラと言えば、ソルトアングラーにとっては、秋から冬にかけてのランカーシーバスには欠かせないマストアイテムとなっておりますが、私の場合はジギング以外のシーズンはすべて、使えと思っています。その存在感ゆえ大きめのベイトフィッシュにマッチすると思われがちですが、魚に気づかせる力があり、オープンエリアでの集魚力はシーズンを問わずまさしくNo.1ミノーと言い切れるルアーです。このルアーがなかったら、ランカーシーバスの捕獲率は大幅に下がるでしょうね(笑)。

●● 有効になるタイミング ●●

●● カラーの選び方 ●●

ソルトではどうしても、本物のベイトに似たカラーのラインナップが多くなります。定番は、アイスシャッドイワシ、エメラルドシャッド、コノシロなどで、時としてこのカラーだけ連発するというのがゴールドチャート、チャートバックシャイナー、ナイトキャンディーです。気になるランカーの好むカラーは、ズバリ! ハスカラー。当船の最大記録102cm・9kgオーバーを釣ったのはハスカラーでした。そして今年発売になった、いままでにない派手カラーのダブルピンクと、背中とお腹が脂の乗った魚をイメージしたクリアイエロ一系のオイルクリアベイト。この2色のアィクルカラーもおすすすめです!



●● ランカーシーバスを釣る秘訣 ●●

とにかく釣れる実績No.1ルアーなので、投げ続けてほしいです。ランカーシーズンの主ルアーはミノーとバイブレーションですが、やはりミノーのほうが大きいシーバスが反応すると思います。間違いないルアーですのてとにかく信じて投げる。KEEP CASTING!! これにつきます。



遠藤正明のヴァルナ動画も公開中!! → <http://bit.ly/1SH1n0C>



PRESENT!!!!

セットで1名様に!!

O.S.P. ネットワークキャップ  
チャコール/ワインレッド

O.S.P. ジップアップジャケット  
Lサイズ/グレー

応募方法\_希望者はメールにて、件名「O.S.P. JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- ① このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ② このパンフレットの率直な感想
- ③ このパンフレットに求める情報
- ④ 釣り歴とホームグラウンド
- ⑤ O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2016年1月4日(月)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について\_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません(法令等により開示を求められた場合を除く)

毎日更新! O.S.P.のすべてがわかる!!  
O.S.P公式ホームページ

[www.o-s-p.net](http://www.o-s-p.net)

O.S.P Lurefishing Facebookページ  
<http://on.fb.me/1ivloty>

並木敏成の知られざる素顔が明らかに...!?  
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」  
<http://t-namiki.net/>

並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」  
更新情報 Facebookページ  
<http://on.fb.me/1iE8UiY>

# KEEP IT ON THE DOWN LOW!!

これは、ここだけの秘密と、いうことで…

Special Issue

【テーマ】

他に類を見ない驚異のオーバーライド  
圧倒的な差をつけたオーバーライドの秘密



## アメリカにおけるメタルバイブは 実はまったくもってメジャーではない

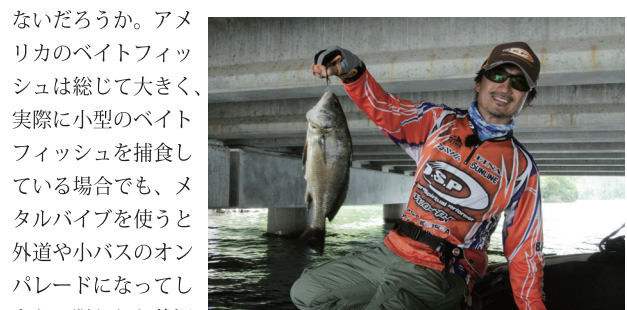
メタルバイブレーションは今や、日本では知らない人がいないぐらい認知されているカテゴリーではあるが、アメリカでは実は、まったくメジャーな存在ではない。

昔、ヘドンのソナーというメタルバイブがあった。自分がバスフィッシングをはじめたころ、富士五湖でのただ巻きで、非常にいい思いをしたことがある。バイブレーションプラグのように広大なウィードフラットをただ巻いてくるだけで、他のルアーを圧倒する釣れっぷりを見せてくれることもあった。

メタルバイブはバイブレーションプラグより小型。それでいて重たいボディで遠投が利くため、長い距離を、かつ一段深いレンジでも引き続けることができる。まさにパイロットルアーで、スピーディに釣る効率的なルアーと、自分は認識していた。

そして日本のフィールドにおける、バスが捕食しているエサは小さい場合も多く、およそ6cmぐらいのエサが主になる場合もある中で、やはりメタルバイブほどのサイズは、秀でた性能を見せつける。

実はこれが、アメリカでメジャーになっていない理由のひとつではないだろうか。



アメリカではこうした外道や小型のバスの猛攻にあうことも、メタルバイブがメジャーにならない理由のひとつだろう

で効率よく探る場合がアメリカでもあり、スモールマウスやスポット、レージが釣れることはあるものの、日本よりは圧倒的に出番が少ない。

何より、日本のフィールドはアメリカに比べて狭く、バスの密度は濃いため、メタルバイブほどのサイズのルアーでも十分にアピールできる。そしてルアーで釣れる外道も少ないため、圧倒的にバスを選んで釣りやすい。そういった点を鑑みても、日本でのメタルバイブはスーパーなカテゴリーだと言える。

## リフト&フォール性能をより昇華させ ただ巻き性能の向上にも力を注いだ

さて、O.S.Pが世に送り出したオーバーライドだが、リフト&フォール性能を昇華させつつ、ただ巻きでも高次元で使用できる能力も兼備。同じカテゴリーの中で抜きんでた性能を持つオーバーライド、そのポテンシャルの高さについてお話ししよう。

やはりどんなルアーでもそうだと思うのが、何かひとつだけの性能を特化させても“釣れるいいルアー”にはならないということ。例えばミノーでダートがよくてもただ巻きがイマイチであれば、優秀なミノーにはならない。自分が思う優秀なメタルバイブとはただ巻きはもちろん、リフトの泳ぎとフォールの質が高次元で両立されていること。ただ巻きに必要な要素とはタイトすぎず暴れすぎず、レスポンスがい



いこと。メインのアイポジションで速巻きでもレンジキープすることが大切で、ミディアムリトリブでレンジキープできても速巻きすると浮き上がって水面を割ってしまうようなものではNGだ。  
またアイのポジションを変えることで、速巻きからスローリトリブまで対応できる性能がほしい。このリップがないメタルバイブというルアーは、すべての部位や形状が直接泳ぎに影響するといっても過言ではなく、浮力があったりリップ付きのルアーと比べると、まったくごまかしが効かないジャンルと言える。ただ巻きやリフトの性能においてはプレートの背中側の形状や前後方向の重心位置、鉛とプレートの段差など、細かいポイントは他にもたくさんあるが、力技で重心を下げてやればベストにはほど遠いながらも、ソコソコなんとか泳いでくれる部分もあるが、かえってそれが落とし穴になりかねない。問題はスライドフォールだが、単にストーンと落ちるのではなく、バックスライドワームのようにスライドさせたほうがいいのは間違いないだろう。スライドさせるためのキモはすべては明かせないが、それぞれバックスライドワームと共通点がある。

あとは横を向かせないことにはスライドしてくれないのだが、付属パーツを付けずにこれを現実するにはいくつもの要素が必要だった。そのひとつには高比重の金属プレートを使用することで、低重心にならないようにすること。さらに、鉛の重心位置も微妙な加減で上げ気味にする必要がある。あとは前後方向の重心も一点集中させずにある程度、分散させたほうがいい。

またスライドフォールも、ストレートなスライドだったりカーブを伴わせるなど、単調にならないほうがいい。この重心を下げ過ぎない設計は物理的に見ると一見、ただ巻き性能を悪化させる方向なのだが、アクションを司る要素は他にもあり、プレートやウエイトのどこをどの程度イジるとどうなるかというサジ加減を完全に把握することで、2つの性能を両立するピンポイントに着地させることができる。

だからこそ各サイズ同じ性能を搭載できる予定でもある。例えばこのウエイトはいいけれど、別のウエイトはイマイチなんてことにはならないだろう。

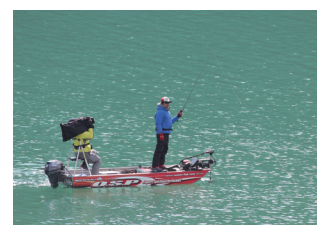
## 冬でもリフト&フォールとただ巻き その両方を状況に応じて使い分ける

これからのシーズンもちろん、ただ巻きとリフト&フォール、その両方を使い分ける。例えば温かく、バスがシャローに差しているようなときはただ巻き。そのときに、枯れ残ったウィードなどにメタルバイブを軽く引っ掛けて、その瞬間は一瞬、止まるのだが、そこでロッドをおおひながら外して巻く。このとき、ルアーは斜め上にバイブレーションしながら跳ね上がり、また斜め下に落とし込んでいく。バイブレーションプラグでよく使うテクニックで、水温が上がったタイミングや、アクティブな状況のときにぜひ試してほしいテクニックだ。

とはいえやはり、晩秋から冬へと向かうこれからはリフト&フォールが中心になってくる。ただ巻きでは食わない、ワームでも食わない。そういうときこそオーバーライド。シャロー or ディープ、ボート or おかっぱりを問わず出番があるだろう。

シャローであれば越冬場。適度に水深があり、風や波の影響を受けにくいところこそ、オーバーライドを投入したい。水路内や消波ブロックの際、およびその中がこれに当たる。例えば水路内で消波ブロック、もしくは水門があって、まわりより少しでも深くなっていると、バスはそこに溜まるしかない。そういったスポットをおかっぱりからならちよい投げ、もしくは足元を丁寧にリフト&フォールで攻める。カスミ水系などでは、冬のおかっぱりの定番スタイルだ。

ディープではフラットや岬絡みで投入したい。ボートからちよい投げで、もしくは魚探を見ながらパーチャカルに落とす。おかっぱりでも、そういった場所に届くのであればロングキャストで狙ってリフト&フォール。カスミの定番が足元のリフト&フォールなら、琵琶湖では冬にメタルバイブを遠投して釣るというスタイルが定番である。



ディープでの出番はフラットや岬に絡むエリア。魚探を見ながらパーチャカルに落とし、リフト&フォールで誘ってみよう

## ウエイトのラインナップも充実 攻めたい水深で使い分けるのが基本

オーバーライドは3/8ozを皮切りに、1/4oz、そして12月には1/2ozが追加される。これにより射程範囲がぐっと広がったことは言うまでもない。今後、ラインナップはさらに充実させる予定だが、まずはこれらウエイトをどう使い分けるのかについて話しておこう。

基本的には攻める水深による。タフなりザーバーでは小型シルエットの1/4ozで20m近くまで探ることもあるが（このときPEの0.8号に10～12lbのプロロを1m程度、リーダーとしてセット。これでストレスなくディープで使用できる）、本来は1～4mまでを1/4oz、3/8ozは4～8m、1/2ozで6～15mぐらいをカバーする（ラインは12～14lbが目安）。もちろんより素早いフォールや強いアピールを求めるときは浅くても重いものを選ぶ必要もあるし、その逆もあることもまた覚えておきたい。

## オーバーライドで確実に食わせる 並木流! 食わせのアクション

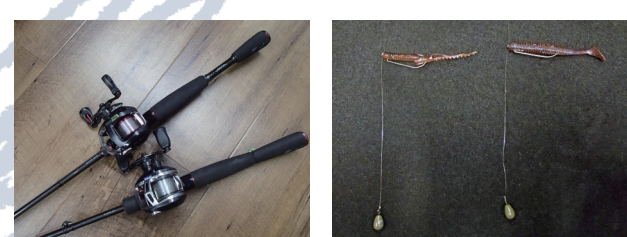
ただ巻きにおいて、特にハイシーズンであればバイブレーションの速巻きのように、レンジを浅く引きたいときはロッドを立てて引いてくる。これで入れ食いになることも珍しくない。ダブルフックで根掛かりをかわし、ときに緩急をつけることが重要。先述したように、ウィードに引っ掛けて外したり、ロッドワーク+リーリングでトレースするコースに多少のアップダウンをつけるのも有効だ。

リフト&フォールでは、基本は30cmぐらいシャクって落とす。バスが上ずっているときは1mぐらい跳ね上げることもあるが、越冬しているボトムにべったりはりついたバスを釣るときは、ボトムからあまり離さない。20cm前後のショートリフトのときは、泳ぎ出しがい

いメタルバイブでない話にならない。さらにボトムで寝ているオーバーライドを起す程度の微細なシェイクで使うときもある。

また、ふつうは着底して0.5秒程度で次のリフトに移るが、食いが悪いときは3秒程度待ってみることも。冬は溜まっているバスを寄ってたかって攻めるため、そんな中で差をつけるのは、こうした細かなテクニックでもあるのだ。

ちなみにワームでオーバーライドのリフト&フォールアクションを演出する方法として、ショートリーダーのダウンショットがある。HPシャッドテールの3.1inおよび2.5inで、リーダー10cm程度のヘビダンなのが、3.1inには7g、2.5inであれば5g、もしくは7g。フォールしたシンカーが先に着底後、ラインを弛ませるとワームはスライドしながら着底する。そんなリアクションストライクを生むアクションとは反して、ポーズや軽いシェイクで焦らせて食わせるアクションに反応がいいときはドライブシュリンプ3inおよび4inをおすすめしたい。



写真上はダウンショット用のスティーズ・ブラックジャック。ときにオーバーライドでも使用。下はオーバーライド用のスティーズ・トムキャット



ドライブシュリンプやHPシャッドテールは、ショートリーダーのダウンショットでも使用。オーバーライドのリフト&フォールアクションでバイトを誘う

最後に、11月27日にDVD「アルティメット11」が発売になった。今回のテーマは冬。合川ダムでオーバーライドが大活躍している。いろんな場所および状況で、ミノーやヘビダン、ネコリグ、そしてラバージグなどを用いて結果を出しているのだが、最も効率よく、幅広い状況で活躍したのはオーバーライドだった。ぜひ、参考にしてほしい。

真冬の合川ダムでロケを行った「THE ULTIMATE11」。オーバーライドの活用方法を知るために、ぜひ参考してほしい





### 春日喜行 @ 千葉県・利根川

ダנק&ハイカット  
(サンセットタイガー)

#### シャッドとネコリグの二本柱で!



私のホームグラウンドの利根川は流れがあり、止水域とは違って冬場でもバスの活性はあるほうで、釣れるチャンスが多くあると思います。

初冬や真冬の狙いどころは、ボートからだど消波ブロックの外側や、ブレイクラインのショルダー部と下側、そしてゴロタ石エリアなど。おっぱりでは水門まわりや、消波ブロックの内側の穴釣り、そしてゴロタ石エリアです。晴れてぼかぼかしている日であれば、シャローカバーをある程度距離をとって攻めていくのも有効です。「ある程度距離をとる」理由は、水温の低下によってプランクトンが減り、水の透明度が上がるため、人の気配が水中に伝わる

ためです。

要は

「人間

→魚→ルアー

」の三角

関係を取り

払い

、魚とルアーの2点にするためです。この考え方はオールシーズン有効ですし、クリアレイクでは特に重要だと思います。

そんな時期におすすめのルアーは、ハイカットシリーズやダנקシリーズのシャッドや、ドライブクローラーとドライブカーリーのネコリグです。

水がクリアアップして澄んでいるときはハイカット&ダנקシリーズ。カラーはフィールドの状況に応じて選びますが、迷ったらサンセットタイガーがいいでしょう。ドライブクローラーとドライブカーリーも同様に豊富なカラーラインナップから、水の色などに合わせて適宜チョイスしますが、こちらは迷ったときはナチュラルプロブルーか、スカッパノンがいいでしょう。お試しください。

### 金井俊介 @ 神奈川県・津久井湖

オーバーライド  
(アイスシャッド)

#### 越冬モード直前のバスを一撃!



11月後半からは水温も下降傾向で、15℃を切ってくるとそれに伴ってバスの活性も日に日に下がってきます。食性でバイトしてくるバスの数も減る中で、いち早くディープまで到達しリアクションバイトを誘発することが食わせのコツです。そんなときこそ、オーバーライドの出番です! 狙うタイプのバスは「バイトにつく少しでも活性の高い個体」と「ボトムにべったりとくっついている個体」の2種類。

狙う層はバイトのレンジによりますが、およそ水深10~20mで、10m前後までは1/4oz、20m前後までは3/8ozを使い分けています。

泥底のフラットや岩盤沿い、立ち木のまわりなどが狙い目で、使い方はリフト&フォールが主体。キャストは10mほどのショートディスタンスで、完全にフォールしたらリフト。そして着底したら再びリフトの繰り返し。いいところに入ったときには、キャスト後の最初のフォールで食ってきますので注意!! 着底直後のリフト時に違和感があれば、すかさずフッキングしましょう。

カラーはアイスシャッドがオススメ。ほかにはシルバーシャッドなど、キラキラ系のカラーを好んで使っています。

越冬モードに入る直前のディープに入ったタイミング(12月頃)こそ、ライトリグにバイトがなければ迷うことなくオーバーライドを選択しましょう!



### 見上祥太 @ 南九州リザーバー

ヴァルナ110SP  
(インバクトワカサギ)

#### 巻き物やワームで反応がないときに!!



いよいよ秋も終わりの時期ですね! ですが南九州のフィールドは水温が下がってくるのが比較的遅く、初冬に入ってもまだまだ秋のポジションを引きずっているバスが多いです。そうは言ってもタフな傾向に少しずつ移行しており、釣り方やエリアがハマらないと反応を得ることができずシビアです。

そこで何をしてもまったくダメな状況で使ってもらいたいのがヴァルナ110SP。秋の思い出で巻き物をしてみたり、スローにフィネスで誘ったりして反応がないとき、ジャークバイトでしか釣れないことって意外と多いです。

ヴァルナ110SPは潜行性能が高く、2~3mレンジの変化(水中の立ち木、大岩やガレ場)を探れるので、九州のようなリザーバーの多いフィールドにはもってこいです。バ



スも散っているんで、効率よく探すことができます。その日の状況に合うアクションをジャークの強弱、およびジャーク間の止める滞空時間で見つけてください。

カラーはインバクトワカサギのようなホワイト系をメインに、フラッシング系やクリア系をローテーションして反応を見ますが、この時期は意外に赤系がハマることも。真冬に入ってしまう前に、ヴァルナを使ってジャークバイトの釣りを、ぜひ!!

## 今「最も効果的な釣り」。

あなたなら、どうする? どうしてる?

# 釣りに行くための〇〇

## 【 パパの仕事は魚釣り! 】

三兄弟の父である高原は、長男が幼い頃より語り続けていることがあります。それは「パパの仕事はふたつある! ひとつは自動車のお仕事。もうひとつは魚を釣るお仕事!!」。

まだO.S.Pさんにお世話になる前から嫁さんとグルになって語っております。

普段から家の手伝いはもちろん、トーナメントがない休日は、子供たちと遊びまくることは大前提! チャプターでの賞品は釣り具よりも家族が喜ぶものを選び、帰ってから子供たちに渡して一緒に遊んでいます。

「パパが釣りに行くというんなものをもらってくる」と思い込ませているのです(笑)。今では「お仕事がんばってねえ!」と送り出してくれます!

そして、家族と釣りに行くのも大事です。近所の管釣りや金魚の釣り堀、どんな釣りでもOK!

子供たち優先で魚を釣らせて、楽しげにはしゃぐその姿を見て嫁さんも終始笑顔で過ごせます。幼い頃から釣りに触れさせることは育児にもなり、将来きっと役立つ(?)と思いますヨォ〜(笑)。

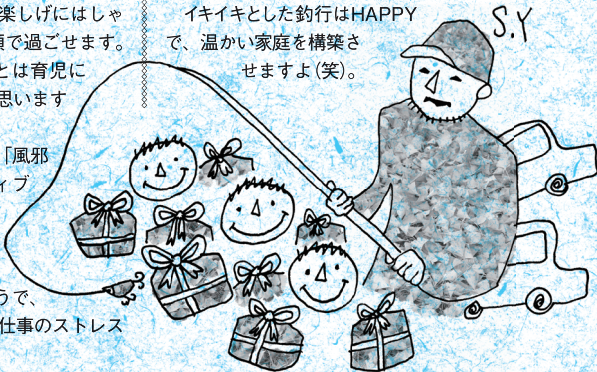
それと普段から「疲れたあ」とか「風邪気味かも」などといった、ネガティブなことは言わないように心掛けています。それは「体調が悪いなら休めばあ」と言われないようにするためです。実際、気は持ちようで、上々な気持ちで釣りをしていると仕事のストレス

も不思議と忘れられている経験は誰でもあるのでは…?

イキイキとした釣りはHAPPYで、温かい家庭を構築させますよ(笑)。

全国のお父さんアングラ様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、かないませんよね? それは釣り業界人と同じ。だから釣りに行く前には必ず、こんなこと、しているのです……

プロスタッフ 高原清さんの場合



# オリキン、H-1 GRANDPRIX

## マスターズカップ優勝!!

2015年11月3日・千葉県将監川

緊急  
レポート!!

ハードベイトのみで関東のメジャーフィールドをトレイルする“H-1 GRANDPRIX”。この年間上位者と招待選手のみで競われるマスターズカップに出場したO.S.P.プロスタッフのオリキンこと折金一樹が、オーバーライドとダンクでスコアメイクし、優勝を果たしました。当日の様様を本人が語ります!

H-1 GRANDPRIX公式サイト→<http://www.h1gpx.com/>

### 幸先いいキッカーフィッシュ 快晴無風を打破したルアーとは

ハードベイトオンリーという制約がありながら、大人気の“H-1 GRANDPRIX”トーナメント。その年間上位者と招待選手のみが出場できる、マスターズカップに参加してきました。

この日はスタートして早々に、運よくキロアップのキッカーフィッシュをキャッチ。しかし過去の大会のウエイトや水域のポテンシャルを考えると、この魚を生かすも殺すも、その後の展開にかかっているのは明白。お立ち台のラインは1800～2000gと踏んでいたの、何としてもあと2匹揃えなければ、という思いでした(リミットは3匹)。

しかし無情にも、ほどなくして快晴無風。ハードルアーで釣るにはかなり難しい状況に突入……そこで、まずはシェードに照準を合わせました。水温の上昇を見込んで、びっしり並んだ竹のレイダウンをチェック。ルアーはオーバーライドをチョイス。使い方はラインを枝に持たせた状態で、竹の下に広がるスペースでスライドフォールさせリアクションで誘うイメージ。このとき、フォールを阻害しないようにラインをやや緩めぎみでティップを送り込んだあと、ルアーの振動が感じられる程度でゆっくりリフト。およそ1mほどの振幅でリフト&フォールしました。

本来であればライトテキサスやジグで攻めるようなシチュエーションですが、意外と引っ掛からず手返しも早いので、今後もジグなどとの使い分けで強力な武器になりそうです。小さめのシルエットかつフラッシングやスピードを生かした攻めは、カバーのバスも見慣れていないはず。反応するバスがいれば勝負が早いのがこの釣りの特徴です。特に秋や初冬など、食わせの釣りでは簡単に反応が得られない状況にはもってこいと言えます。



そして答えはすぐに出ました。小さめの500gでしたが、貴重な2匹目です。カバーをひとしきり打ち終えたあと、次に向かったのは水深があるハードボトム。あちこちに沈みモノが点在しています。相変わらずの天気で、長い距離でも追ってきて食うような状況ではないため、モノに絡めた攻めで天候やタイミングに左右されにくい魚を狙う作戦です。

ここでは狙う水深の2mをしっかり引けるプラグをチョイス。また障害物をナメるようにトレースしつつも、それでいて根掛かりしないルアーが求められます。

そこで迷わず選んだのはダンク48F。自分の中で、これ以外に選択肢はありませんでした。狙った水深は2m前後なので、ダンクの潜行能力からするとやや浅め。しかし、よりスローかつタイトに攻めるためには、この潜行能力がベスト。

キャスト後にイチ早くボトムに到達することはもちろん、エリアの水深に対してありあまる潜行能力は、水を掴み続けながら常に潜ろうとしているため、巻き物とは思えないほど極タスローに引いてもボトムを捉え続けます。また水中で高さのあるモノを越えたときも、すぐにボトムに向かって急潜行することでチャンスを取りこぼすことなく攻められます。

さらにフローティングモデルならではの、モノをかわたときの浮くアクションと、その直後に水を噛んで潜行するメリハリは、短い範囲内の縦の動きとなり、これがバイトの引き金になります。

特にこれから寒くなるにつれて出番の増えるシャッドの釣りでは、こういったプラグ自体のレスポンスの高さが釣果に直結する決定的な要素となるでしょう。

ロッドワークはワームのズル引きのようにティップを下げ、ゆっくりとしたロッドストロークでボトムの起伏を感じながら、「引く&緩める」

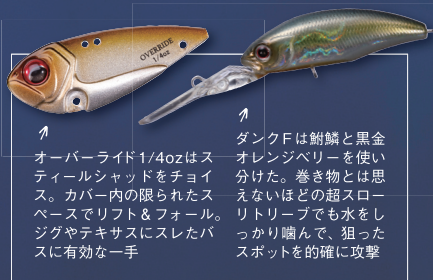


という作業を繊細に行い、引いた分だけリールで巻き取るという方法。そして、広く探りつつ、反応のありそうな所はコースや向きを変えて根気よく探ります。

この釣り方ですぐに500g強のバスを1匹追加。ハンゴフからのリアクションバイトを取り、リミットメイク! この釣りを続けて1時間後にさらにもう1匹追加することに成功し、数10gながら貴重なウエイトアップを果たしました。

その後も同じようなシチュエーションで釣り続けたもののタイムアップ。結果は2540g。予想以上にまわりが釣れておらず、わずか40g差で優勝することができました。

朝以降は巻き物でバイトを得るには難しい状況であったものの、多くの参加者も同様に攻めあぐねた時間帯だったようです。そんな中で貴重なキーパーをもたらし、かつ表彰台の頂点に押し上げてくれたオーバーライドの可能性とダンクのポテンシャルの高さに助けられたと実感しています。ダンクもオーバーライドもこれからのベストシーズン。ぜひ、お試しください!



↑  
オーバーライド1/4ozはスティールシャッドをチョイス。カバー内の限られたスペースでリフト&フォール、ジグやテキサスにスレたバスに有効な一手

↑  
ダンクFは鱗と黒金オレンジベリールを使い分けた。巻き物とは思えないほどの超スローリトリブでも水をしっかり噛んで、狙ったスポットを的確に攻撃